

---

# 狂気

背瀬川 有次

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

狂気

### 【Nコード】

N4283N

### 【作者名】

背瀬川 有次

### 【あらすじ】

気づくとある部屋

ゲームが始まる

(前書き)

気楽に読む本

「どこだ…ここは…」  
記憶がない…

コンクリートの壁に囲まれた部屋で『永田 信次』は、目を覚ました。

目の前には、謎のスイッチが6個と、モニター。  
その上には、ガラス。

後ろには、扉。

永田は思い出した、確か…友人と一緒に、飲んでみんなで帰ってたら、いきなり首を、締められて…

「ハア…」ため息をついた永田は、ガラス越しの光景を見た瞬間、血の気が引いた。

「なんだ…これ…」  
さっきまで、一緒にいた友人が首にロープを掛けられ、手足を縛られている。

「おはよう、永田信次君」  
モニター越しに、仮面をかぶった男がこちらに向かって、話し掛けてきた。

永田は、声も出せないでいた。「君には、今から“ゲーム”をしてもらおう」

「ゲーム？」

「ルールは、いたって簡単そのスイッチを、押せばいいんだ」

「これか？」

「そうだ。」

永田の脳裏に、ある疑問がよぎった。

「押すとどうなる？」

「目の前にいる、君の友達が首を吊って死ぬだけだ」  
男が、冷静な口調で言った。

「ふざけんな！…どういうことだ！！」

「言っただろ、“ゲーム”だと」

「は？」

「でわ、頑張りたまえ」

モニターの映像が、消えた瞬間 ジリリリリリリ！！

サイレンのような、音が鳴り響いた。

永田が、気づくと友人は全員起きていた。

「おい…なんだこれ…？」

一番右端の、浦上がいった。

浦上は、よく話し合う友人で、本名は『浦上 嶋』ヤンキー風の外

見で、自称モテ男だ。

昔からの友人で、一緒にいた時間が長い。

なので、仲がよく二人で遊ぶ事も多い。「首にロープが、掛かっている！？」

「おい、あそこ！永田が居るぞ！」

言ったのは、右から三人目の『安原 典』だ、正直苦手だ。

髪はいつもボサボサで、目付きも悪い。

生格も短気で、ワガママだ。

しかし永田には、何もしてこないの、気にしていない。

「どういうこと！永田！」

右から六人目の、アイツは、『谷川 真希』顔は、可愛いが性格が悪い。

俺は、べつに気にしてないが…俺は…あと、浦上と、付き合っている

唯一何も発してない、右から4人目の女は、『小島 由子』地味な見た目に、喋る事が少ない。

話した事もない。「なんだよ！これ…知ってんだろ！永田あ！」

右から5人目、乱暴な口調の奴は、『神田 信』だ、アイツは、俺をパシリにするヤンキーだ浦上と違い、うざい奴だ。

そして、右から二人目の眼鏡は『志水 考』ガリ勉強郎だ。

いつも上から目線の、ナルシストだ。

「俺も知らないよ！」

大声だった。が、向こうには、届かないようだ。

「スイッチ…」

押せば帰れるのか？

「死ぬだけだ」

男の言葉が、離れない。

「くそつくそつくそつ！」

震える手が、スイッチに近づいた。

ガチャン！！

スイッチを押した瞬間、志水の足元が抜けた…

志水は、首に掛かったロープによって、首が締めまり、暴れている。

顔が、だんだん青くなり、泡をふき死んでしまった…

「きゃあああああ！」

「うわああああ！」

悲鳴が、部屋に響く。

「こんな…」

永田は、驚いて腰を抜かし、地面にへばりついた。

しかし、それよりは罪悪感が大きく、気づくと涙がこぼれ落ちた。

しかし、何故かスイッチに手が近づいた。

気づくと、スイッチを押していた。しかも、2つ同時に。

ガチャン！！ガチャン！！

安原と神田が、苦しむ。

その光景は、いつの間にか、面白い感じた。

「はははは」

笑いながら、永田は、スイッチを押す。

ガチャン！！ガチャン！！

浦上と谷川が死んだ。

さあ、終わりだ。

「止めて、嫌ああ！」

小島が、泣きながら命乞いする。

永田は、関係ないとスイッチを押した。

シーン

何も無い。

小島は、死んでない。

いや、泣いて、気絶してる。

モニターから、声が聞こえた。

「残念だよ。」

「は？」

「プレイヤーが、狂ったらプレイヤーを殺すルールだ」

「え？」

刹那。永田の頭から、パン！という音と、同時に、鮮血が飛んだ。

小島は、その後家にかえり。

普通にくらしだ。

このゲームの次のプレイヤーが、自分だと知らず…

(後書き)

ありがとうございます



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4283n/>

---

狂気

2010年10月9日13時09分発行